

アイデアソン班ごと発言まとめ

【D班】

城端線氷見線の利用増には、運行ダイヤ増や設備刷新といった「①利便性向上」は当然必要だが、それと合わせて、「②沿線住民や通勤通学で通ってくる市民の側においても、鉄道やバスといった公共交通を、自分達が必要とする身近なものとして関心を持つ状態にする必要がある」との意見があった。（MMの実施強化）

特に学校教育では、高校生から教えるのでは遅く、もっと小さい子供の頃から、クルマだけではなく、鉄道やバスに触れ合い、自分達が将来使っていくものであるとの関心を持つ状態にしていくべきとの意見があった。（学校MMの早期化）

またそれとは別に、「③具体的な機会をとらえた対応」として、今後の砺波市役所や警察署が移転するタイミングで新駅を設置し、行政や警察の職員にも公共交通を利用する範を示してもらい、並行して企業にも公共交通利用を浸透させていってはどうかという意見があった。（公務員MMの実施、企業MMの実施）

いずれにしても、これまでのように各市の行政単位で考えていくことは難しいので、呉西地区全体の広域圏として、行政は民間や市民団体との連携や話し合いの場を増やして、具体的に進めていく必要があるという意見があった。

※ MM…Mobility Management（モビリティ・マネジメント）の略。個人や地域社会全体が自発的に移動方法を改善し、望ましい交通状況を生み出すことを目指す取り組み。学校で実施する学校MM、公務員や企業向けに実施する公務員MMや企業MMなど、MMには様々な活動形態がある。

◇現状で不便な点

- 運行本数が少なく日常生活として使える状態では無い。特に学生は他に選択肢が無いので、将来的に便利な都会に出て行ってしまい、戻ってこない。
- 駅設備が貧弱なため、子供が安心して鉄道を待てる状況になっていない。結果、保護者は相対的に安心・安全な車で送迎することとなり、その送迎の負担が家族にのしかかる住み難い地域になってしまっている。
- 子供だけではなく大人も使いにくい。バリアフリーをもっと進めるべき。
- 駅へのアプローチが難しい。結局駅まで車で送迎するしかなく不便。（散居村ならではの課題でもある）

◇考える改善策

①利便性向上

- 日常生活で使うに堪える運行ダイヤを設定する。（15分単位、20分単位、30分単位を状況に応じて設定）
- 富山直通列車を通勤や帰宅の時間帯にもっと設定する。
- 他の交通手段との乗り換えが便利なダイヤを設定する。（新幹線、バス等）

- 駅での乗り換えや待ち時間を快適に過ごせる環境にする。（駅空間のリノベーション、冷暖房、電源、Wi-Fi等）
- 駅に様々な生活施設を併設し、生活拠点・賑わい拠点として再生させる。
- 車で通勤するよりもコスト的にメリットがある状態にする。（運賃設定）
- 新駅設置の検討、および、既存駅含めたパーク＆ライド環境の更なる整備と沿線企業や住民に対する利用促進策の推進。
- 駅へのアプローチが難しい散居村ならではの課題解決として、ちょいそこ等のデマンド交通の利便性を強化。住民以外も利用できるようにする等。

②MM（モビリティ・マネジメント）の本格的実施・強化への取組

- 公務員MM、企業MM、学校MMなどの各種MM活動を今後のまちづくり施策として実施し、皆が自分達毎として公共交通を考える状態にする。
- 子供たちが普段使いする状況にする。（駅環境・車内環境をもっと身近なものにする。子供たちが描いた絵の掲出。塾や習い事教室の併設など）
- 鉄道やバスを対象とした地域イベントを定期的を実施する。（働くクルマといったクルマ主体のイベントだけではなく、鉄道やバスのお祭りなど）
- チューリップフェアや沿線地域の祭りの時期に合わせて、公共交通無料Day等を実施し、公共交通に触れ合う機会を増やす。

◇その他

- 砺波市役所や警察署の移設に合わせたチューリップ公園新駅の設置（職員の利用促進、チューリップフェアなどのイベントによる来訪者利用促進、そしてそれらと絡めた今後のまちづくりの検討）
- 高岡市、砺波市、氷見市、小矢部市、南砺市などの行政単位でバラバラに考えても、人の移動はその垣根を超えるため限界がある。呉西地区広域圏の課題として行政のみならず民間、市民団体とも連携して取り組むべき。
- 市民が無関心である状態から早々に脱却する必要がある。
- 他府県の取り組みを学び取り入れる。

以上